

わが子が巣立つVUCA時代に 向けての子育て

皆さんは今「わが子はこれから激動の時代を生きていく。そのために役立つ“武器”を身につけさせたい」……そう切実に願っていると思います。これからの社会はどのように変化していくのか、グローバル化、デジタル化の進展の下で、「わが子は自分でちゃんと生きていけるのだろうか」と心配されているのではないのでしょうか。で、来たる時代、社会とそれに向けた子育てについてお話ししたいと思います。



わが子が巣立つ未来は “VUCA”の時代

「VUCA」という言葉を目に、耳にしたことがあると思います。これから子どもたちは皆さんが経験したことのないVUCA(変動性、不確実性、複雑性、曖昧性の英単語の頭文字

をとった言葉)の時代を生きていくことになると言われていました。

昨秋、私が代表を務める安田教育研究所では私学の先生を対象に下の写真のようなグローバル&STEAM教育のセミナーを開催しました。大学に送り出すこととどまらず、生徒が巣立つ社会まで視野

に入れて教育していただきたい、という趣旨からです。

「世界で戦える人材を養成することを仕事としている(株)IGSの会長で、慶應義塾大学や一橋大学で教鞭をとられている福原正大先生に話をしてもらいました。要約するところな内容です。

- 30年前、福原先生がフランスのMBAスクールにいた時には競う相手はほぼ欧米人だったが、近年インド、中国の教育水準が飛躍的に向上し、今の生徒が巣立つ世界には当時の数百倍もの競争相手がいるだろう
- エヌビディア、アップルの2社で、日本の上場している株式会社全体の時価総額を超えている
- 30年後のノーベル賞受賞者は、ほとんどがインド人、中国人になるだろう
- 現在パソコン上でやれていることはA-1に取って代わられる↓デスクワーク中心のホワイトカラーは消滅する!?
- A-1の活用抜きにして仕事はできない
- A-1を使いこなせる高度な専門性や創造性を持つ人材はむしろ価値が高まる
- 認知能力ではA-1に勝てない
- 非認知能力こそ重要になる

どうでしょう。このように仕事も、世界も大きく変わります。これまでどおりの仕事観、世界観、人生観ではわが子は生き抜いていけないのではないのでしょうか。

国も企業も地盤沈下

先のセミナーで「インド、中国の教育水準が飛躍的に向上」とありました。世界各国の国力を表現するのによく使われるのが、GDP(国内総生産)ですが、2050年には表のようになります。予測されています。

順位	2024年	2050年
1	アメリカ	中国
2	中国	インド
3	ドイツ	アメリカ
4	日本	インドネシア
5	インド	ブラジル
6	イギリス	ロシア
7	フランス	メキシコ
8	イタリア	日本

2050年にはEUの国々が姿を消し、グローバルサウスといわれる国々が伸びてきます。お子さんが巣立つころの世界の勢力図はこんな具合になっているということも知っておいてください。

既に一部の私立の中高一貫校では生徒が巣立つていく時代を考えると、オーストラリア、ニュージーランドなどの英語圏に加えてアジア地域を海外研修先に行っている学校が出てきています。また企業の評価を表す指標として「株式時価総額ランキング」が使われます。これについては日本が一番元気だった1989年と現在とを比較してみましよう。

1989年		2025年11月	
企業名	国	企業名	国
NTT	日本	エヌビディア	アメリカ
日本興業銀行	日本	アップル	アメリカ
住友銀行	日本	アルファベット(グーグル)	アメリカ
富士銀行	日本	マイクロソフト	アメリカ
第一勧業銀行	日本	アマゾン・ドット・コム	アメリカ
上位50社中32社が日本		50位までではトヨタ自動車の48位のみ	

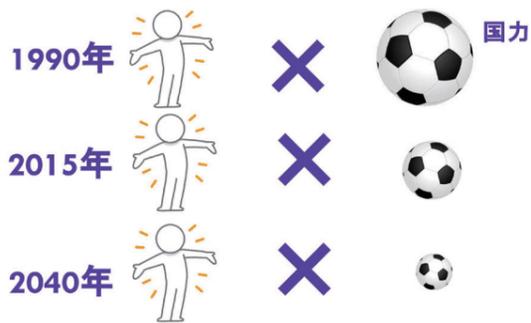
なんと1989年には世界の上位50社中32社が日本企業だったのです。世界を席巻していた日本企業は今や右側のように姿を消しているのです。「失われた30年」と言われるのはこういうことなのです。

今われわれはそこそこ豊かな生活を送れているので、この2つの表のような実感はあまりないのですが、



世界的に見れば日本の賃金水準は低く、田安が進んで国力はどんどん落ちていきます。

株式会社総額ランキングの表でお気づきのようにテック企業を生み出せなかったことが要因の1つです。科学技術分野での立ち遅れが国力の弱体化につながったことは間違いありません。お子さんが社会に出るころには日本の世界でのポジションが一段と低下していることは確実でしょう。



同じ能力でも、国力が影響。世界に出たとき、どんどん不利に。

どうしたらいいのか。明らかなのは、アメリカのテック企業のようなイノベーション企業、それらを創り出す人材を生み出せなかったのが国の育て方がまずかったということ。

胆力、エネルギー、自信

これまでのような「すでに社会的評価が定まった組織(大学、企業)の一員」を目指すような教育、子育てでは状況を変革できません。将来が不安であるという「安全、確実なルート」を歩ませたくありません。「食べていける」という最低限の確保に向かいたくありません。

が、もはやそんなルートは存在しませんし、心配が先に立つ消極的な姿勢ではとても荒波を乗り越えることはできません。まして75歳まで働く可能性があるお子さんの世代は「一毛作」ではありえないのです。「一毛作」

そしてできれば、自分以外の人のことを考えられ、分断化が進む社会の「架け橋」になれるような人に育てていただきたいと思えます。

「得意淡然 失意泰然」

最後にまとめのようなお話をしましょう。

中学入試が終わった2月のある日、親しい先生からメールが届きました。合格、不合格の厳しい現実の日々を過ごされてきたからでしょう。メールには、若いころから母に言われ続けている言葉として「得意淡然 失意泰然」が記されていました。

「物事がうまく行っている時(順境の時)は、おごらずに、淡々としている。物事がうまくいかない時(逆境の時)は、落ち込んだりせず、ゆったりと構えていなさい」というのが本来の意味です。私はこれから次のようなことを考えました。

「一毛作」の人生を歩むには、失敗を怖がらない、積極的に貪欲に何事にもチャレンジしていく姿勢こそが、スキル以上に必要な「武器」と言えます。「未知の荒野」に挑む胆力を養うこと、そのためのエネルギーを蓄えること、自分は何とかやっていけるという自信を持たせること、これらを第一に考えた子育てをしていただきたいと思えます。

また、これからの時代は好むと好まざるとにかかわらず、種々雑多な人と付き合わざるを得なくなるはず。今の生徒が企業に入るころには隣の席には王さん、李さん、ガンジーさん、スミスさんが座っている環境です。

多様な人々の間でたくましく生きていく精神力、寛容さ、忍耐力等を養うには、学校の中にも雑多な生徒、先生がいたほうがいいと思います。

学力を上げるには効率が悪い。大学合格実績にはつながらない。偏差値が下がる。生活指導に大半の時間がとら

人生、いい時もあれば、不運な時もあります。恵まれた状況がずっと続くものでもない。つらい時も挫けそうな時も必ずあるもの。激動の時代だからこそ、浮き沈みはつきもの。だから常にドンと構えて生きていく、そんな姿勢をお子さんに伝えられたい。それこそが子どもの将来にいちばん役立つことではないでしょうか。そんなことを、頭の片隅にでもいれずから置いて、子育てしていただければと願っています。

れそうだ……確かにその通りです。でもあと10年もすれば、狭義の学力以上に、種々雑多な人々との間でもまれた経験のほうに「生き抜く力」につながるのではないのでしょうか。

学校選びにもそうした視点が求められる時代が来るように感じています。

分断社会の「架け橋」に

これからの時代を考える時に、もう一つ視野に入れなければならないことが、社会の「分断化」です。目下アメリカではこれが最大の課題になっています。またイギリスのEU離脱でも国民は真っ二つに割れました。

ご承知のように、アメリカで移民を排斥するトランプを熱烈に支持したのは「ラストベルト(さびついた工業地帯)」の貧しい労働者でした。EU離脱に投票したのも、移民に仕事を奪われることを恐れた貧しい労働者でした。



◆プロフィール

安田教育研究所
安田 理 先生

大手出版社で雑誌の編集長を務めた後、教育書籍の企画・編集にあたる。幼児部門から就職部門までの若手を集めた教育情報プロジェクトを主宰、幅広く教育に関する調査・分析を行う。同社を退社後、安田教育研究所を設立。講演・執筆・情報発信、セミナーの開催、コンサルティングなど幅広く活躍中。日本経済新聞、朝日新聞、NHK、「MOVE」、「JB press」など各種新聞・雑誌、ウェブサイトにコラム、コメントを掲載。

<https://www.yasudaken.com>